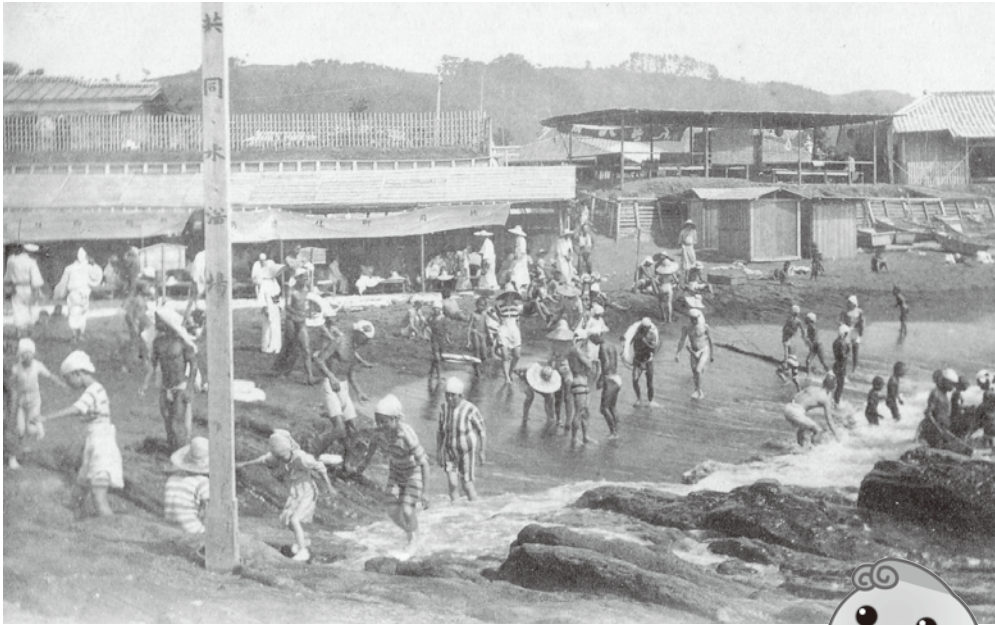


もっと知りたい私たちのまち

海があり、山があり、そこに歴史がある……

日増しに夏を感じる季節となり、夏休みの予定を立てている方も多いのではないのでしょうか。かつての大磯は、政治家や著名人が別荘をこぞって建て、避暑地として賑わいを見せました。在りし日の大磯へ、紙面旅行にご案内します。



▲明治時代の海水浴場

▼現在の海水浴場

昔も今も、みんな海水浴が好きだべえ



「いそべえ」

「海水浴場発祥の地」大磯

大磯が海水浴場発祥の地と言われているのはご存知でしょうか。正確には、大磯で海水浴場が開かれる前から、海水浴を行っていた場所はあるようですが、海水浴場として明治時代の初めから注目されました。大磯に海水浴場を開いたのは、松本順という医者です。松本順は順天堂を開いた佐藤泰然の子で、医者として初めは江戸幕府に仕えましたが、幕府が倒れた後、腕を買われて明治政府の軍



医として活躍しました。病気の療養を目的とした海水浴に注目した松本順は、大磯を海水浴場に適している場所と判断し、地元住人の協力を得て、1885（明治18）年に海水浴場を開きました。また、保養所と旅館を兼ねた禰龍館（とうりゅうかん）を開業し、海水浴客の集客に努めました。その効果もあって、明治時代後半には大磯が海水浴場の地として知られ、多くの人が訪れるようになったのです。

「別荘地」大磯

温暖な土地に注目したのは医者だけではなくありません。明治政府の中心人物や旧大名など財力がある者は、明治20年代頃から大磯の地にこぞって別荘を構えるようになりました。初代総理大臣の伊藤博文は、大磯を訪ねたとき、すっかりこの土地を気に入り、1896（明治29）年に、小田原にあった別荘滄浪閣を大磯の地に移します。伊藤博文の気に入りようは確かなもので、別荘を移したことをきっかけに住民票を大磯町に移し、後に本籍も移して大磯町民になりました。伊藤博文が滄浪閣を構えたことよって、当時の政治家や実業家も相次いで大磯の地に別荘を構えます。海水浴場が活気に沸いた明治時代の後半には、約100軒の別荘がありました。



▲伊藤博文が過ごした頃の滄浪閣（絵葉書写真より）